

阿波市の祭りと民俗芸能

民俗班（徳島民俗学会）

高橋 晋一*

要旨：本稿では、文献資料と現地調査に基づき、阿波市の祭りと民俗芸能に関する基礎データを提示するとともに、その特色を明らかにする。吉野川中流域に位置する阿波市の祭り・民俗芸能は、吉野川の上～中流（西部域）、中～下流（東部域）の民俗要素が重なり合った複合的な形態をなしている。祭礼・民俗芸能に関して言えば、阿波市はその西に隣接する旧美馬郡域とともに、吉野川流域の東西の民俗の漸移地帯を形成していると言することができる。

キーワード：祭礼，山車，神輿，民俗芸能，文化圏

1. はじめに

本報告では文献資料および現地調査に基づき、阿波市における神社祭礼と民俗芸能の全体像を提示するとともに、その特色を指摘したい。

阿波市関連の市町村史等において、これまで特色ある民俗芸能（獅子舞など）の紹介は断片的に見られたが¹⁾、各神社祭礼の実態に関する詳細な報告は皆無であった。また民俗芸能についても、まったく取り上げられていない事例が散見される。地域社会に存在する民俗の実態を正確に押さえてはじめて、客観的・実証的な民俗研究に着手することができる。そのため筆者は阿波市全域において祭礼・民俗芸能の悉皆調査を行い、その実態把握に努めた。現地調査は平成18～21年にかけて実施した（平成18～19年は阿波市阿波町・市場町、平成20～21年は阿波市吉野町・土成町の調査を行った）。具体的には、阿波市内の各神社の関係者（神職、神社総代）・民俗芸能保存団体の代表者から祭礼（民俗芸能）の歴史・組織・行事の実際、それらの変化に関する詳細な聞き取り調査を行うとともに、祭礼当日に観察調査を実施するという形をとった。

なお、本論文の内容に関連した阿波市の祭礼・民俗芸能の一部について、巻末のCD内に動画ファイルとして添付した。これらのファイルの保存形式はflvであり、flv形式に対応した動画再生プレーヤーで再生可能である。

2. 阿波市の祭りと民俗芸能の特色

平成18～21年に実施した調査に基づき作成した阿波市の祭礼山車一覧・民俗芸能一覧を、表1・表2に示した。なお、市内各地域の祭りや芸能の実態の詳細については、拙稿²⁾を参照されたい。

県内の多くの神社祭礼に共通する要素は、1) 神輿の御旅所渡御、2) 山車の巡行、3) さまざまな奉納芸能の3つであるが、阿波市においてもこの点は当てはまる。以下、これら三つの構成要素のそれぞれについて、阿波市ではどのような地域的特色が見られるのか、順に見ていきたい。

1) 神輿の御旅所渡御

神輿かきに担がれた神輿³⁾がお練り（神輿渡御）の隊列や山車を従え所定の数ヶ所の御旅所を回り、神事を行い、地域によってはその後神輿が単独で氏子区域を巡行し、最後再び神社に帰還するといった

* 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

表1 阿波市の祭礼山車一覧

地域	旧町村	神社名	所在地	名称
阿波市1	吉野町1	一條神社	阿波市吉野町西条字町口146-1	屋台1台 (かつて2台), よいやしよ1台 (かつて2台)
阿波市2	吉野町2	十二柱神社	阿波市吉野町柿原字小笠155	屋台1台 (八幡神社と兼用) (休止)
阿波市3	吉野町3	八幡神社	阿波市吉野町柿原字鳩ノ原127	屋台1台 (十二柱神社と兼用) (休止)
阿波市4	吉野町4	八坂神社	阿波市吉野町柿原字小島290-5	屋台1台 (廃絶)
阿波市5	吉野町5	国都神社	阿波市吉野町柿原字植松32	よいやしよ1台 (休止)
阿波市6	吉野町6	若宮神社	阿波市吉野町柿原字植松223	屋台1台 (休止)
阿波市7	吉野町7	天神社	阿波市吉野町柿原字二条95-2	屋台1台 (休止)
阿波市8	吉野町8	案内神社	阿波市吉野町柿原字篠原337	屋台1台 (休止), よいやしよ1台 (休止)
阿波市9	土成町1	山皇子神社	阿波市高尾字山王子31	屋台1台
阿波市10	土成町2	御所神社	阿波市土成町吉田字椎ヶ丸6	よいやしよ2台
阿波市11	土成町3	諏訪神社	阿波市土成町法林地字高泰180	屋台2台 (廃絶)
阿波市12	土成町4	稻尾神社	阿波市土成町土成字田中38	屋台1台 (かつて2台), よいやしよ1台 (休止)
阿波市13	土成町5	奇玉神社	阿波市土成町浦池字西の宮64	屋台1台 (休止), よいやしよ1台 (休止)
阿波市14	土成町6	王子神社	阿波市土成町西原字大王子231	屋台2台 (廃絶)
阿波市15	土成町7	建布都神社	阿波市土成町郡布都569	屋台1台 (休止), よいやしよ2台 (休止)
阿波市16	土成町8	日吉神明神社	阿波市土成町水田字日吉261	屋台2台 (休止), よいやしよ3台 (休止)
阿波市17	土成町9	大地神社	阿波市土成町秋月字中王子132	屋台1台 (休止), よいやしよ1台 (休止)
阿波市18	市場町1	事代主神社	阿波市市場町伊月字宮ノ本100-1	屋台5台 (休止)
阿波市19	市場町2	八坂神社	阿波市市場町伊月字定松90	屋台1台 (休止)
阿波市20	市場町3	八幡神社	阿波市市場町八幡字町屋敷49-2	屋台6台 (うち4台は引き屋台) (休止)
阿波市21	市場町4	若宮神社 (東の宮)	阿波市市場町切幡字吉友64	よいやしよ1台 (休止)
阿波市22	市場町5	八大龍王宮	阿波市市場町切幡字観音132	屋台1台 (休止)
阿波市23	市場町6	天神社 (大野島神社)	阿波市市場町大野島字天神66	屋台1台 (休止)
阿波市24	市場町7	王子神社	阿波市市場町山野上字中山285-1	屋台1台 (休止), よいやしよ1台 (休止)
阿波市25	市場町8	八幡神社 (弓八幡神社)	阿波市市場町山野上字大西29-2	よいやしよ1台 (休止)
阿波市26	市場町9	建布都神社	阿波市市場町香美字郷社本18	よいやしよ1台 (休止)
阿波市27	市場町10	住吉神社	阿波市市場町香美字住吉本237	よいやしよ1台 (休止)
阿波市28	市場町11	八幡神社	阿波市市場町香美字八幡本176	屋台1台 (休止)
阿波市29	市場町12	若宮神社	阿波市市場町市場字上野段224	屋台4台 (休止), よいやしよ4台 (休止)
阿波市30	市場町13	天満神社	阿波市市場町興崎字北分1	屋台1台 (休止)
阿波市31	市場町14	八坂神社	阿波市市場町尾開字八坂241	屋台1台 (休止), よいやしよ1台 (休止)
阿波市32	市場町16	春日神社	阿波市市場町尾開字八坂371	屋台1台 (休止)
阿波市33	市場町15	日吉神社	阿波市市場町尾開字日吉208	よいやしよ1台 (休止)
阿波市34	市場町17	八幡神社	阿波市市場町大俣字八幡128	屋台1台 (休止)
阿波市35	市場町18	事代主神社	阿波市市場町上喜来字蛭子2030	屋台1台
阿波市36	市場町19	稻荷神社	阿波市市場町日開谷字稻荷438	よいやしよ1台 (休止)
阿波市37	市場町20	八坂神社	阿波市市場町日開谷字日比字	よいやしよ1台 (休止)
阿波市38	市場町21	若宮神社	阿波市市場町日開谷字野田原272	屋台1台 (休止)

阿波市39	阿波町1	勝命神社	阿波市阿波町勝命北29	屋台1台 (引き屋台), よいやしよ1台 (休止)
阿波市40	阿波町2	春日神社	阿波市阿波町下喜来258	よいやしよ1台 (休止)
阿波市41	阿波町3	八坂神社	阿波市阿波町谷島201	屋台1台 (休止), よいやしよ1台 (休止)
阿波市42	阿波町4	王子神社	阿波市阿波町王子12	よいやしよ1台 (休止)
阿波市43	阿波町5	賀茂神社	阿波市阿波町新開30	屋台1台 (休止), よいやしよ5台 (休止)
阿波市44	阿波町6	賀茂神社 (古賀茂神社)	阿波市阿波町伊勢5	屋台1台 (休止), よいやしよ2台 (休止)
阿波市45	阿波町7	貴布禰神社	阿波市阿波町井出口282	よいやしよ3台 (休止)
阿波市46	阿波町8	天神社 (天満宮)	阿波市阿波町山尻	屋台1台 (休止)
阿波市47	阿波町9	伊沢神社	阿波市阿波町元町195	屋台1台 (かつて2台), よいやしよ5台 (休止)
阿波市48	阿波町10	八幡神社 (東条神社)	阿波市阿波町居屋敷219	屋台1台 (休止)
阿波市49	阿波町11	八幡日吉神社	阿波市阿波町十善寺112	屋台1台 (休止)
阿波市50	阿波町12	王子神社	阿波市阿波町王子川19	屋台1台 (休止)
阿波市51	阿波町13	八幡神社	阿波市阿波町岩津93	屋台5台 (休止)

表2 阿波市の民俗芸能一覧

◎獅子舞

No.	地域	名称	伝承地	奉納の機会	文化財指定	備考
1	吉野町1	案内神社の獅子舞(高畑の獅子舞)	阿波市吉野町柿原	案内神社例祭	○	
2	吉野町2	本郷の獅子舞	阿波市吉野町五条	五条神社例祭		廃絶
3	吉野町3	大西の獅子舞	阿波市吉野町西条	一條神社例祭		廃絶
4	土成町1	吉田(桜)の獅子舞	阿波市土成町吉田	御所神社例祭	○	
5	市場町1	大影の獅子舞	阿波市市場町大影	大影神社例祭		
6	市場町2	犬墓の獅子舞	阿波市市場町犬墓	明見神社例祭		休止
7	市場町3	上喜来の獅子舞	阿波市市場町上喜来	事代主神社例祭		
8	市場町4	日開谷の獅子舞	阿波市市場町日開谷川又・為後・中ノ名	城王神社例祭		廃絶
9	阿波町1	川久保の獅子舞	阿波市阿波町川久保	八幡神社例祭, 八幡日吉神社例祭		
10	阿波町2	北ノ名の獅子舞	阿波市阿波町伊勢	伊勢神社例祭		
11	阿波町3	小倉の獅子舞	阿波市阿波町小倉	伊沢神社例祭, 小倉地区夏祭		
12	阿波町4	真福寺の獅子舞	阿波市阿波町真福寺	5月節句, 妙多意神社例祭, 伊沢神社例祭		廃絶

◎お酌

No.	地域	名称	奉納の場所	奉納の機会	文化財指定	備考
1	市場町1	八幡神社のお酌	阿波市市場町大俣字八幡128	八幡神社春祭		
2	阿波町1	賀茂神社のお酌	阿波市阿波町新開30	賀茂神社春祭		
3	阿波町2	貴布禰神社のお酌	阿波市阿波町井出口282	貴布禰神社春祭		
4	阿波町3	賀茂神社(古賀茂神社)のお酌	阿波市阿波町伊勢5	賀茂神社(古賀茂神社)春祭		休止
5	阿波町4	天神社(天満宮)のお酌	阿波市阿波町山尻	天神社(天満宮)春祭		休止

◎その他

No.	地域	名称	伝承地	奉納の機会	文化財指定	備考
1	市場町1	じょうれい踊り	阿波市市場町日開谷	城王神社例祭	文化財指定	大俣小学校運動会で披露

行程自体は、県内他地域の神社祭礼と大きな違いは見られない。

注目すべきは、大人の担ぐ神輿とは別に、あるいは大人の神輿がなくメインの神輿として子供神輿が御旅所渡御ののち氏子区域を巡行し、家々を回って「お賽銭」をいただくという地域が少なからず見られることである（写真1）。山車の乗り子、獅子舞の太鼓打ちなどとあわせ、とかく大人中心となりがちな祭りの中に子供を取り込むシステムの一つとして、子供神輿の存在は興味深い⁴⁾。



写真1 子供神輿の巡幸（吉野町柿原・国都神社）

2) 山車

山車については、若年層の流出や少子化に伴い近年巡行を休止する地域が増えている。表1に見るように阿波市内ではかつて51カ所の秋祭りで山車の巡行が見られたが、現在も山車が出ているのはわずか7カ所にすぎない。しかし一條神社（吉野町）、御所神社（土成町）、相尾神社（土成町）では現在も山車（屋台・よいやしょ）を若連が担いで巡行するなど、伝統的な風景が見られる（写真2）。

徳島県の山車の形態は、県南・県西ではだんじり（引くタイプの山車）、県北（吉野川流域）では屋台・よいやしょ（担ぐタイプの山車）が優勢である。前者の分布域を「だんじり文化圏」、後者の分布域を「屋台文化圏」と呼ぶこともできる⁵⁾。阿波市の山車は担ぐタイプ（屋台・よいやしょ）がほとんどを占めており、形態から見ると吉野川流域の屋台文化圏としての特色を顕著に示していると言える。

しかしその中でも、下に車輪を付けて引くタイプかつみよの山車が2カ所（阿波町勝命北の勝命神社、市場町

八幡の八幡神社）見られることは、山車の形態の歴史的变化を推察する上で注目し値する（写真3）。



写真2 屋台（土成町土成・相尾神社）



写真3 引き屋台
（阿波町勝命・勝命神社）

県内の引くタイプの山車（だんじり）は、担ぐタイプの山車（屋台）に比べ、より古い形の山車の姿をとどめていると考えられる⁶⁾。かつては吉野川流域においても引くタイプの山車が見られたが⁷⁾、祭りを華やかに見せるために次第に「引く」山車から「担ぐ」山車への転換が図られていったようである⁸⁾。勝命神社、八幡神社の山車は、「担ぐタイプの山車」に変化する前の吉野川流域の古い山車の姿を伝えるものと見ることができる。

山車の乗り子は「屋台」が5人乗り（大太鼓1・小太鼓1・鉦2）で、「よいやしょ」が4人乗り

(中央に据えた太鼓1を周囲に座った乗り子が合わせて叩く)である(写真4)。乗り子は顔に化粧をし、着物を着てタスキがけをし、頭に烏帽子をかぶり山車に乗り込む。以前は男子のみであったが、近年は少子化のため女子が参加するケースも増えている。



写真4 よいやしょ (吉野町西条・一條神社)

3) 民俗芸能

民俗芸能については、秋祭りの獅子舞、春祭りの「お的」行事が代表的なものである。

獅子舞については、かつては市内の12カ所で传承されていたが、現在も行われているのはそのうち7カ所である。ほとんどの地域で香川県から伝来したという話が聞かれ、阿讃山脈を越えた文化交流の形跡を残すものとして注目される。なお、徳島県における獅子舞の分布は吉野川流域に密であり、県南にはほとんどみられないが、このことは県下の獅子舞が阿讃山脈を越えた香川県側との交流の中で導入されたことを如実に示している。導入時期は近世後期(18世紀)から明治期(19世紀)にかけてとされるところが多い。

同じ阿波市内の獅子舞でも、その形態は多様である。吉野町柿原の案内神社の獅子舞には、二頭の獅子に向かって男性が太刀を切り込む「太刀」の舞がある(写真5)⁹⁾。土成町御所の獅子舞は、前半にきわめてスローテンポで舞う部分があり、静と動の対比が印象的である。

獅子舞の基本的な構成は、二頭だての獅子(それぞれ頭と尻に舞い手が一名ずつ入る)に、キョクウチと呼ばれる二名の子供が太鼓を叩きながら絡むというものである。鳴り物は阿波市の場合太鼓(3, 4台)が基本で鉦が入らない地区が多いが、これは吉野川中～下流域の獅子舞の特色である。しかし市場町大影・市場町犬墓・阿波町小倉・阿波町北ノ名の獅子舞には太鼓に加え鉦が入る(写真6)。鉦の入る獅子舞は三好・美馬など県西部の獅子舞の特色であり、さらに言えば香川県側の影響を強く受けた獅子舞と言える。



写真5 案内神社の獅子舞 (吉野町柿原)



写真6 大影の獅子舞 (市場町大影)

新年にあたり弓矢で的を射て悪事災難をはらう「お的」行事は県西地域に分布が密であるが、阿波市はその分布の東端に位置している。市内ではかつて5カ所、現在は3カ所(阿波町2カ所、市場町1

カ所)でお的が行われているが、中でも市場町大俣八幡神社のものは古式をよくとどめている(写真7)。1月に入ると当家の家^{とや}で射子^{いてし}の作法の練習が始まる。行事の2, 3日前に、地区の人たちが当家宅に集まり、「綱打ち」と言っ^{かみしも}て的場の周囲に巡らせて結界とする長さ20メートルあまりの大綱をなう。当日は当家宅でおはらいをした後、列次を組み神社に向かい、途中の辻々で神職がご祈祷をする(辻神楽)。神社境内の的場に^{かみしも}着くと、神事後、袴姿に烏帽子をかぶった6人の射子^{かみしも}が的に向けて矢を放つ。なお、八幡神社には宝永2年(1705)以降現在に至るまでのお的の諸役の氏名を記した当家帳が現存しており、貴重である。

特殊な芸能として、市場町日開谷の「じょうれい踊り」がある(写真8)。戦前は旧暦7月12日に城王山頂の城王神社、翌日に日開谷字川北の松尾神社で踊られていたが、その後休止。昭和47年に復活し、現在は大俣小学校の運動会で生徒が地元婦人会のメンバーとともに披露している。太鼓を打ちながら小唄を歌うという特色からかつて県内各地で踊られて



写真7 八幡神社のお的(市場町大俣)



写真8 じょうれい踊り(市場町日開谷)

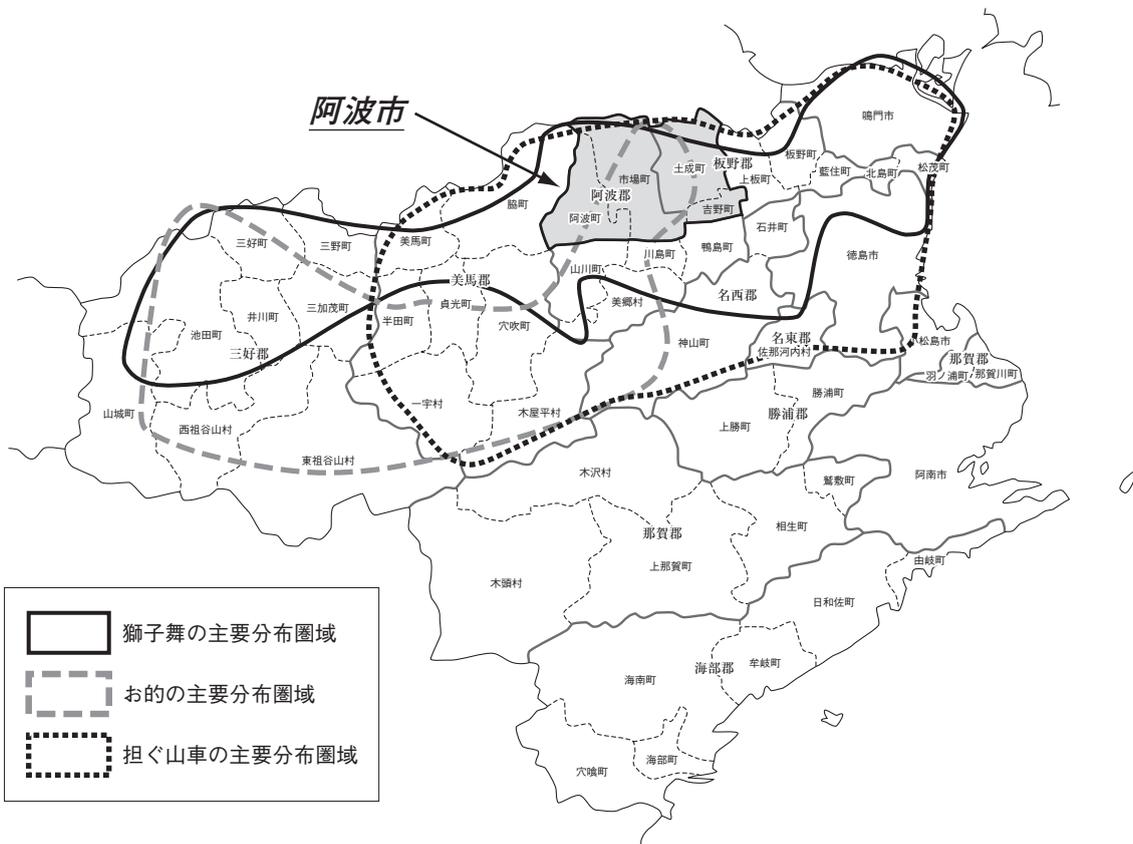


図1 徳島県における獅子舞・お的・担ぐ山車の分布圏域

いた「神踊り」の一種と考えられるが、同時に雨乞い踊りとしての性格を持っている¹⁰⁾。城王山（598メートル）はその西にそびえる伊笠山（720メートル）とならび雨乞いの聖地であった。旧阿波郡は県下でもとくに干ばつの被害が大きかった地域で、じょうれい踊り奉納の背景にはこうした状況があったものと考えられる。日開谷西岸の七村踊り、香美村の寅松踊り、伊沢村の神踊りなど、同種の雨乞い踊りは近隣地域にも多く見られた¹¹⁾。

3. おわりに

以上、阿波市の祭りと民俗芸能の特色を、神輿の御旅所渡御・山車・民俗芸能の3点を手がかりに確認してきた。最後に同地域の祭礼文化の特色を、徳島県というより広い文脈に位置づけつつとらえてみたい。

分布圏域ということで考えると、阿波市に多く見られる屋台・よいやしよ（担ぐタイプの屋台）は吉野川中～下流域に特徴的な民俗、お的是吉野川上～中流域に典型的に見られる民俗である。これらは吉野川流域以南の地域（県南地域）には分布がほとんど見られない。獅子舞は吉野川流域全域に密に分布する民俗であるが、上～中流域では鳴り物に鉦が入り、中～下流域では鉦が入らない。阿波市には鉦が入る獅子舞・入らない獅子舞の双方が見られる。

これらのことから、吉野川中流域に位置する阿波市の祭り・民俗芸能は、まず「県北＝吉野川流域の民俗」としての特性を示した上で、吉野川の上～中流（西部域）、中～下流（東部域）の民俗要素が重なり合った複合的な形態をなしていると言える（図1）。祭礼・民俗芸能について言えば、阿波市はその西に隣接する旧美馬郡域とともに、吉野川流域の東西の民俗の漸移地帯・分水嶺を形成していると言えるのである。

注

- 1) 阿波町史編纂委員会（1979）、市場町史編纂委員会（1996）、土成町史編纂委員会（1975）、吉野町史編纂委員会（1976）など。
- 2) 高橋（2007）、高橋（2008a）、高橋（2010）。
- 3) 実態としては全行程にわたり神輿を担いでいる地域はほと

んどなく、神輿を台車に乗せて引く形に変わっている。

- 4) たとえば、吉野町内では五条神社（五条）、八坂神社（柿原島田）、国都神社（柿原谷）、若宮神社（柿原ヒロナカ）、八幡神社（柿原北二条）、天神社（柿原南二条）、産土神社（柿原小路）の7つの神社祭礼で子供神輿のみの巡幸が行われており、伝統的な習俗であることがわかる。吉野町柿原の案内神社では、お練り（神輿の御旅所渡御）の際、社号額・鉦・槍などの道具持ちを子供が務めている。これも祭礼に子供を取り組むシステムの一つと言えよう。
- 5) 高橋（2008b）：220頁。
- 6) 高橋（2008b）：220頁。
- 7) 岡島（1986）：216頁、徳島県文化振興財団民俗文化財集編集委員会（2001）：92頁、岩村（1953）：79頁など。
- 8) この変化の傾向は近県にもあてはまる。大本（2002）、水野（2002）、瀬戸内海歴史民俗資料館（1998）などを参照。
- 9) 太刀が入る獅子舞は名西郡石井町高川原にも伝えられているが、これは江戸時代、柿原の案内神社から伝習したものであるという（聞き取り調査による）。
- 10) このことは、じょうれいおどりの詞章を記した文化5年（1808）の史料の表紙に「雨乞踊十二番」と記されていることからわかる。
- 11) 槍（2002）：164頁。

文献

- 阿波町史編纂委員会編（1979）：『阿波町史』阿波町。
 市場町史編纂委員会編（1996）：『市場町史』市場町。
 岩村武勇（1953）：『昔の高島』岩村武勇。
 大本敬久（2002）：「愛媛県の祭礼山車」『四国民俗』35, 3-25頁。
 岡島隆夫（1986）：「ヨイヤシヨ」『阿波の民俗1 年中行事』徳島市立図書館, 216-8頁。
 柿島村誌編集委員会編：『かきしまー柿島村史』同刊行会。
 近藤有地蔵編（1924）：『阿波郡誌』阿波郡役所。
 瀬戸内海歴史民俗資料館編（1998）：『香川県の民俗芸能』同資料館。
 高橋晋一（2007）：「旧阿波郡の祭り」と民俗芸能－旧市場町篇』『徳島地域文化研究』5, 139-76頁。
 高橋晋一（2008a）：「旧阿波郡の祭り」と民俗芸能－旧阿波町篇』『徳島地域文化研究』6, 75-113頁。
 高橋晋一（2008b）：「徳島県における祭礼山車の展開－文化交流史の視点から」『歴史に見る四国』雄山閣, 217-40頁。
 高橋晋一（2010（刊行予定））：「阿波市吉野町の祭り」と民俗芸能』『徳島地域文化研究』8。
 徳島県文化振興財団民俗文化財集編集委員会編（2001）：『土成の民俗』同財団。
 土成村史編纂委員会編（1951）：『土成村史』土成村役場。
 土成町史編纂委員会編（1975）：『土成村史』同委員会。
 槍 瑛司（2000）：『徳島県民俗芸能誌』錦正社。
 水野一典（2002）：「香川県の祭礼山車」『四国民俗』35, 26-38頁。
 吉野町史編纂委員会編（1978）：『吉野町史下巻』同委員会。

